

令和8年（2026年）度施策評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価者	環境部長 不破 寛和
-----	------------

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野	3-(3) 生活環境	施策の方針	3-(3)-①3Rの推進・ごみの適正処理
目標とするまちの姿	「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に向けて、市民、事業者、市等の連携・協働により、ごみの発生抑制を最優先とした3R(発生抑制、再使用、再生利用)の取組が進み、循環型社会が形成されています。			
主な取組	<p>(1)ごみの発生を抑えた環境配慮型社会の構築 家庭や事業活動から排出されるごみの中で、特に食品ロスや使い捨てプラスチック製品に対する発生抑制を行うとともに、ライフスタイルの見直しや生産販売事業者への啓発を図り、市民、事業者、市等が協働して実施してきたごみの3R(発生抑制・再使用・再生利用)の取組を継続します。 また、「かまくらプラごみゼロ宣言」に基づき、事業者などと協働を図りながら、使い捨てプラスチック製品の利用廃止に向けた取組を推進します。</p> <p>(2)市民生活に対応した分別・収集体制の構築 家庭から排出されるごみの収集について、だれもが不自由なく安心してごみの排出ができるよう、多様な市民生活に対応した効率的かつ効果的な分別・収集体制の構築に取り組みます。</p> <p>(3)ごみの適切な処理体制の構築 市施設に集めたごみについて、ごみ処理に係る最新技術や民間活力の活用、広域連携、費用負担の軽減などを踏まえ、環境に配慮した安定的で効率的なごみ処理体制の構築に取り組みます。 なお、災害時には「鎌倉市災害廃棄物処理計画」に基づいた対応を行います。</p>			

1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

①更なるごみの減量・資源化策として、まずは紙おむつの実証実験結果から見えてきた課題解決や体制構築等の検討を行うとともに、市内の不燃ごみ等の積替え所移転に向けた調査及び施設整備等の検討を進める。
②ごみ収集事業については、引き続き収集体制の見直しを検討することにより安定的なごみ処理の運営を維持する。
③戸別収集については、先行地区で戸別収集を実施したことで見えてくる課題を着実に改善し、全市域での戸別収集を確実に実施できる収集体制を確立する。併せて戸建て住宅及び集合住宅の排出場所の確認や市民周知を積極的に行うことで、スムーズな戸別収集の全市実施に繋げていく。
④ごみ処理広域化に移行後も安定的なごみ処理を継続するため、施工事業者と連携し、名越及び今泉クリーンセンター周辺自治町内会と組織する協議会との協定内容を遵守するよう努めるとともに、丁寧な説明を行い住民理解を得ながら、名越中継施設整備を着実に推進する。

2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	2,591,289	2,629,569	2,930,772	2,972,292	3,469,855	4,498,226
人件費	770,645	714,017	706,877	696,312	734,934	669,154
総事業費	3,361,934	3,343,586	3,637,649	3,668,604	4,204,789	5,167,380

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	環境-01	環境運営事業		13,210	17,947	31,157	現状維持	A	現状維持
	環境-03	ごみ収集事業		107,755	14,359	122,114	現状維持	A	現状維持
	環境-04	ごみ資源化事業		860,635	45,422	906,057	現状維持	A	現状維持
	環境-05	3R推進事業		49,344	41,142	90,486	現状維持	A	現状維持
重	環境-06	廃棄物処理施策推進事業		1,242,750	19,189	1,261,939	休止・廃止	A	休止・廃止
重	環境-07	戸別収集事業		163,262	59,644	222,906	現状維持	B	現状維持
	環境-09	廃棄物処理施設のマネジメント事業		0	828	828	現状維持	A	現状維持
	環境-10	廃棄物処理施策推進事業		423,819	25,677	449,496	休止・廃止	A	休止・廃止
	環境-11	最終処分事業		3,031	1,657	4,688	現状維持	B	現状維持
	環境-12	ごみ処理広域化計画推進事業		8	12,425	12,433	現状維持	A	現状維持
	環境-20	ごみ収集事業		1,137,671	29,958	1,167,629	現状維持	A	現状維持
	環境-21	名越クリーンセンター管理運営事業		4,476	13,116	17,592	現状維持	A	現状維持
	環境-22	今泉クリーンセンター管理運営事業		235,170	83,526	318,696	現状維持	A	現状維持
	環境-23	笛田リサイクルセンター管理運営事業		244,818	20,156	264,974	現状維持	A	現状維持
	環境-24	環境センター収集事業		12,277	284,108	296,385	改善・変更	A	現状維持

4. 評価対象年度の主な実施内容

①使用済み紙おむつの資源化処理に当たっては、資源化設備事業者へのヒアリングを行うとともに、全市域での燃やすごみ戸別収集との整合性を含めた収集体制の確立に向けた検討を行った。また、事業推進の大きな制約となっている資源化施設を整備できる適地の確保と、施設整備及び処理に係る高額な費用については、民間事業者の活用も視野に入れて、引き続き更なる検討を進めていく。不燃ごみ等の積替所移転については、一般競争入札によりコンサルタント事業者を選定し、移転先の新たな施設整備に向けた基礎検討資料の作成に着手した。

②ごみ収集事業については、市内で排出される燃やすごみの全量を今泉クリーンセンターにおいて中継処理することから、一部市外への直接運搬を行うなど施設周辺の環境負荷を抑えるための必要な体制を構築した。

③戸別収集については、先行地区での実施と並行し、令和8年度全市域での燃やすごみ戸別収集の開始に向けた各種準備を進めた。具体的には、収集事業者による収集運搬シミュレーションの実施、戸建て住宅の排出場所確認、集合住宅の排出場所確認及び集合住宅への補助金交付、説明会の実施を含めた各種周知に係る業務等を実施した。また、コンサルティング業務委託、先行地区に居住する市民向けアンケートの実施により、戸別収集品目の拡大を含めて、本市の最適な戸別収集のあり方について検討を進めた。

④名越中継施設整備及び今泉クリーンセンターの中継機能の継続利用に当たり、安全な施設整備及び運用、並びに周辺環境への負荷軽減に向けた対策を講じ、名越及び今泉クリーンセンター周辺自治町内会と組織する協議会との協定内容を遵守するよう努めるとともに、協議会や説明会、ニュースペーパーを通じて情報共有を図った。

⑤リチウム蓄電池による火災事故が頻発していること、令和7年度に行政収集を開始した小型充電式電池13品目以外や膨張したモバイルバッテリー等の処理方法に関する市民からの問合せが急増していること、並びに環境省通知により家庭から排出される全てのリチウム蓄電池等の回収体制構築が求められていることから、収集対象を拡大し、膨張した小型充電式電池の行政収集を行うこととし、安全安心で安定的な資源化処理体制を構築した。

※実施できなかった事業とその理由

5. 成果指標

成果指標①		市内から排出されるごみの総排出量 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)						出典	神奈川県一般廃棄物処理実績報告	
初期値	平成30年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	58,623	目標値	59,771	57,556	56,837	56,388	55,935	55,488	トン	令和7年度実績値は県が取りまとめてR9.3に確定
		実績値	60,471	58,593	56,779	53,894	53,280	未定		
		達成率	98.8%	98.2%	100.1%	104.6%	105.0%	-	%	
成果指標②		市内のごみ焼却量 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)						出典	神奈川県一般廃棄物処理実績報告	
初期値	平成30年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	29,992	目標値	29,639	27,564	26,758	26,316	24,885	15,522	トン	
		実績値	29,994	28,483	22,659	22,484	21,541	19,435		
		達成率	98.8%	96.8%	118.1%	117.0%	115.7%	79.9%	%	
成果指標③		市民1人1日あたりのごみの排出量						出典	神奈川県一般廃棄物処理実績報告	
初期値	平成30年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	931.9	目標値	946.9	927.6	920.1	916.8	913.5	910.2	グラム	令和7年度実績値は県が取りまとめてR9.3に確定
		実績値	959.0	929.0	902.0	858.0	858.0	未定		
		達成率	98.7%	99.8%	102.0%	106.9%	106.5%	-	%	

成果指標④		リサイクル率 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)						出典	一般廃棄物処理事業実態調査	
初期値	平成30年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	52.5	目標値	53.0	53.0	54.8	55.0	55.3	71.7	%	令和7年度実績値 は環境省が取りま とめてR9.1頃に確 定
		実績値	52.7	52.6	56.3	58.5	59.8	未定		
		達成率	99.4%	99.2%	102.7%	106.4%	108.1%	-	%	
成果指標⑤		マイバッグを利用している市民の割合						出典	市民アンケート調査	
初期値	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	63.4	目標値	70.0	72.0	74.0	76.0	78.0	80.0	%	
		実績値	未実施	92.0	91.3	92.4	92.2	89.1		
		達成率	—	127.8%	123.4%	121.6%	118.2%	111.3%	%	
成果指標⑥		マイボトルを利用している市民の割合						出典	市民アンケート調査	
初期値	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	50.9	目標値	55.0	58.0	61.0	64.0	67.0	70.0	%	
		実績値	未実施	60.2	59.0	58.3	63.7	56.3		
		達成率	—	103.8%	96.7%	91.1%	95.1%	80.4%	%	
成果指標⑦		燃やすごみのうち未開封の食品の量						出典	神奈川県一般廃棄物処理実績報告及び家庭系燃やすごみ組成調査結果報告より算出	
初期値	平成30年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	415	目標値	376	337	298	259	220	179	トン	令和7年度実績値 は県が取りま とめてR9.3に確定
		実績値	未実施	592	600	713	575	未定		
		達成率	—	56.9%	48.7%	36.3%	38.3%	-	%	

6.「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

事業系ごみ資源化、粗大ごみ資源化等の施策や、市民意識の向上により、ごみの焼却量及び市民1人1日当たりのごみの排出量は年々減少傾向にある。

しかしながら、実用化に向けた情報収集を進めている生ごみや紙おむつの資源化については、収集体制の構築や事業の経済性など解決すべき課題があり、実用化に至らなかったため、市内から出されるごみの焼却量減量については目標達成に至らなかった。

マイバッグの利用については、日頃から啓発に努めており、レジ袋有料化後、環境意識の高まりも相まって定着してきたことが伺える。

マイボトルの利用については、給水スポットの普及を中心とした啓発を実施したが、目標を達成できなかった。民間企業が実施したアンケート調査を見ると、マイボトルを持たない理由として通勤時の荷物が増えることへのストレス、持ち歩きが面倒、洗浄の手間等が挙げられ、マイボトルを購入しても使用していない人が一定数いることも挙げられていた。手間をかけてまで環境配慮の行動を取る人はそう多くはないことが伺えるが、事業者や市民団体と連携し、行動変容を促す啓発を図って利用率の向上に努めていきたい。

7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に向け、市民や事業者と市が協働で、一人ひとりのライフスタイルの見直しによるごみの減量を促す取組を実施した。具体的には市民と連携したフードドライブやウォーターサーバーの設置拡充、また、関東圏では初となる縦型乾式メタン発酵方式を活用した事業系燃やすごみの全量資源化によりゼロ・ウェイストかまくらの実現に向けた取組を進めた。併せて、事業系ごみ専任チームによる排出事業者への啓発訪問を通じ、事業系ごみの適正処理及び資源化を促した。

また、不燃ごみ等の積替え所移転に向けた基礎検討の開始や、小型充電式電池の収集体制の拡充など、安定的なごみ処理体制の実現に向けた取組を実施している。特に、近年増加している小型充電式電池の収集体制の拡充は、適正な資源循環体制を維持する取組であるといえる。

また、資源化を確実に実施するためには、市民の分別協力が基本となる。自治町内会への説明会、推進員会合等は、分別についての理解促進に貢献している。

廃棄物処理施設推進事業について、第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画に基づき、ごみ処理広域後も安定的なごみ処理を継続するため事業者と連携し安定的なごみ処理体制の構築を進めた。また、ごみ中継施設の整備にむけて名越及び今泉クリーンセンター周辺自治町内会と組織する協議会を開催し、地元住民に対して丁寧な説明を行い住民理解を得ながら既存焼却施設の解体作業を行うとともに、ごみ中継施設の設計業務に着手した。

ごみ処理広域化実施計画推進事業について、事務委託に基づき逗子市焼却施設での燃やすごみの広域連携を開始した。ごみ中継施設の整備や広域連携により安定的なごみ処理が可能となることから貢献度が高いと考える。

8. 今後の方向性

鎌倉ミライ共創プラン2030 該当施策	3-4 廃棄物
<p>令和8年度全市域での燃やすごみ戸別収集を円滑に導入するとともに、年間を通して安定的な収集体制を確保し、適切な運営に努める。クリーンステーション維持管理の負担軽減に向けて、引き続き戸別収集品目の拡大に向けた検討を進めていく。</p> <p>第4次一般廃棄物処理基本計画において、最終処分量を限りなくゼロに近づけるゼロ・ウェイストの実現を掲げ、ごみの削減に取り組むとともに適正なごみ処理を行う。紙おむつ資源化の実証実験結果から見えてきた課題解決や体制構築等の検討を行うとともに、意識の向上によるさらなるごみの削減につなげるため、事業者・市民と連携し、生ごみ処理機の普及、食品ロスの削減、マイバッグやマイボトルの使用促進など、様々な3R事業活動を強化していく。</p> <p>また、家庭系燃やすごみの広域処理により、将来にわたって安全で安定したごみ処理を継続していく。ごみ処理広域化を推進し安定的なごみ処理を継続するための体制を構築する。また、広域連携の中核となるごみ中継施設整備を着実に推進するとともに、ごみ処理における環境負荷・財政負担の低減に向け、燃やすごみの適正処理、生ごみ及び使用済み紙おむつの資源化等について国・県や民間事業者の動向を注視し検討を進める。</p>	